

三中だより

令和6年10月4日(金)
大田区立大森第三中学校
校長 笛木啓介
令和6年度第7号
大田区中央4-12-8

2学期が始まって一か月が過ぎました。今年は、9月半ばまで連日最高気温が35℃に達するなど、真夏そのままに暦だけが9月となったようでした。それでも、生徒たちには、一つひとつの行事に前向きに取り組んで、2学期を着実にスタートさせようという姿勢がみられました。そんな始まりの9月には、1年生では移動教室、2年生は職場体験、そして3年生では修学旅行と、各学年での中核となる行事が続いたため、あっという間の1か月でした。これらの行事は、1学期から事前学習に取り組んでおり、それぞれの準備にかかる時間は、当日への期待感を高めてくれました。

さて、1年生は、移動教室で長野県の車山高原に出かけました。まだまだ残暑が厳しかった大田区に比べて、爽やかな快い高原の空気をたくさん味わうことができました。また、キャンプファイアで、見上げた星空の美しさは印象に残ります。そもそも、なぜ高原はこんなに涼しいのでしょうか。そして、たくさんの星が見られるのでしょうか。車山高原は標高が1600mです。標高が100m上がると0.6℃気温が下がることがわかっています。大森第三中学校の標高が5mですから、35℃だったとすると車山湖高原は9.6℃も低い25℃という計算になります。どこかで聞いたことがあると思ったら、これは中学2年生の一次関数の問題でした。高原の美味しい空気を味わいながら、必ずこうしたことを考えなければならないということではありません。ただ、「高いところは涼しい」ということを実感することは、さまざま

な考えの原点として、とても大切なことです。

星空がきれいに見えて感動したというのも、直観的に大切な気持ちです。もちろん、標高が高くて、空気中のちりや水蒸気が少ないから空気が澄んでいるという理由を知ることも大切です。中学校の理科で学習する、気温と、飽和水蒸気量の関係から、空気中に含まれる水分が少なくなり、空気が澄んでいるという仕組みです。どうして「降るような星空なのだろう」という疑問から、こうした学びに連携させていく人もいれば、星たちを紡ぎ合わせて物語を考える人もいるかもしれません。大切なことは、体験することで得る感動を受け止め、自分の中で連想したり活用したりすることなのです。ちなみに、移動教室の日はちょうど中秋の満月で、月が煌々と照っていたので、星たちの光を吸収してしまい、満点の星空とまではいかなかったそうです。

9月も終わり、秋の気配が感じられるようになってきました。日が落ちるのも早くなり、夜空を眺める機会も多くなってきました。時に上を向いて、星空を眺めて、いろいろなことに思いを巡らせるのもよいでしょう。季節の移ろいや学校生活の中の体験、それで得た感動や疑問を大切にして、また次のステップへと進んでいきたいと思います。学校は、10月となり一年間の教育活動の中盤となります。これまでの学びの成果を発揮できるよう、日ごろの教育活動をすすめてまいります。



スクールカウンセラー出勤予定日

藤田 啓子	10/8(火)、10/15(火)、10/22(火)、 10/23(木)、10/29(火)
鳥海 真里	10/2(水)、10/9(水)、10/16(水)、 10/23(水)、10/30(水)
田中 典子	10/7(月)、10/18(金)、10/21(月)

※大森三中 相談室直通電話 (3773) 7831

10月の行事予定

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
進路面談 (5)(6)カット (3)			振替休業日		学芸発表会 (合唱コンクール) 【弁当持参】	(5)前日指導 合唱コンクール準備							合唱コンクールハーサル(1) 漢字検定16:00	合唱コンクールハーサル(2) 職員会議		合唱コンクール練習始 朝練習もあり	スポーツの日 鉄道の日		開校記念日	(5)(6)進路説明会(3)		安全指導	中央委員会 16:00	生徒朝礼 早め早起き・朝(はん)月間の取組期間(11日)		(5)(6)英語検定(3)	専門委員会 15:00	①(5)復習確認テスト(3)	区教研小中連携研究会	修学旅行振替休業日(3)

車山移動教室を終えて

1年

車山移動教室を終えて、私はたくさんの達成感と少しの後悔を感じていました。

6月10日、第1回車山移動教室実行委員会がありました。宿泊行事ということもあり、すごくワクワクしていました。移動教室でのリーダーとして先頭に立てたらすごくかっこいいなと思い、実行委員長に立候補しました。実際に委員長としての活動は、実行委員全体の進行をしたり、各クラスから出た意見を一つにまとめたりなど、慣れないことばかりでした。小学校の時とは違って少し緊張感のある雰囲気の中で前に立ち、自分の意見を口に出すのはとても緊張して、言っても大丈夫なのかなと躊躇してしまうこともありました。

夏休みの三者面談で、私はもっと自信をもって発言できるようになりたいと、先生に相談しました。実際に2学期に入ってからの実行委員では、1学期に上手くいかなかったことをもとに、分からぬことがあったら一人で考え込むのではなく、副委員長に相談してみたり、と自分なりに改善できるようにしました。あるときは、意見がぶつかってしまい、もう決まらないのではないかと諦めそうになった時もありました。でも、しっかりとみんなで向き合って最後まで諦めずに話し合いました。そのようなことが何回もあり、移動教室のルールを練り上げました。

移動教室当日の2泊3日はたくさんのことがありました。イメージしていた2泊3日になったかと聞かれると、悩んでしまうと思います。もちろんすごく楽しかったし、実行委員長になって良かった、と思えたこともあります。それでも楽しい時間を過ごしているときだからこそ、見逃してしまっていた部分があったりして、後々の後悔にながったりします。今考えると、あの時こう言っていたら、ああ言っていたら、「樂しいからいいか」で済ませてしまった自分を思い出して、いろいろな気持ちが溢れそうになります。それが、少しの後悔です。ただ、たくさんの達成感を感じるのは、進め方やまとめ方が合っているのか不安で逃げくなってしまっても、最後までやり続けて、自信を少し身につけたと感じられるからだと思います。



移動教室を通じて得たもの

1年

僕は移動教室実行委員を務めていた。僕らが5年生のときの移動教室は、新型コロナウイルスの影響で、伊豆に行けなかった。また、6年生の移動教室でも、その影響があり、1泊2日になった。だからこそ、実行委員に自ら手を挙げ、この移動教室をよりよいものにしたいと思った。

もちろん、実行委員は楽ではなかった。放課後に残って、みんなで話し合い、ルールを決めたり、しおりの製本をしたりと大変だった。また、実行委員は班長も兼任することになっていた。しかし、実行委員が面倒くさいと思ったことは一度もなかった。大変だったこと以上に、移動教室への思いのほうが強かったのかもしれない。

移動教室では、日ごろの疲れや勉強のことを忘れて、まっすぐ楽しむことができた。オリエンテーリングや冒険教育プログラムなどみんなで協力することで、みんなとの絆が深まった気がした。実行委員としても、班長としても、クラスを上手くまとめられていたと思う。しかし、学年全体でみると、バスや宿舎の備品の破損、不要物の持ち込み、就寝時間を守れなかったなど、課題もあった。

移動教室は上手くいった点もあった、しかしこれらのことがあったということに対して、僕は実行委員として、少し不甲斐ないなと思っている。それは、僕たち実行委員の注意が行き届いていなかった、移動教室の目的や意義を理解してもらえていなかったということなので、改善していかないといけない。

次の宿泊行事は、2年後の修学旅行だ。今回の移動教室で反省点は多く見つかった。修学旅行で実行委員など行事に関わることをするかどうかは分からぬが、今回の経験を活かして、よりよい宿泊行事にしたい。また、3日間で強まったクラスみんなとの絆、実行委員をやり遂げたことで得た自信は、今後の僕の支えとなるだろう。



移動教室の2泊3日の行程は天候にも恵まれ、たくさんの学びや思い出を得て、成長する機会となりました。